

西宮RC太田様、ようこそお越し頂きありがとうございます。

17日の海の日チャリティーコンサート泉先生お疲れ様でした。

今年の春の選抜野球大会から日本高野連は甲子園出場の練習に女子マネージャーが参加することが認められましたが、幾つかの制限が設けられています。

女子マネージャーがグラウンドに入れる範囲は「練習中の球が当たらないように」と一、三塁側のベンチ前から外野にかけてのファウルゾーンは張られた人工芝内としています。女子マネージャーはここで外野手へのノックの補助や、タイムキーパーを務めています。21世紀枠で出場した岩手県代表の不来方高校は部員が10名で女子マネージャー2名、普段への練習では打撃様マシンへの球入れや内野ノックの補助する日頃に比べて10分の1にも満たないと思いますが、聖地の土や芝生は踏めなくても選手と同じ気持ちでグラウンドに立っていたと思います。今後高野連のほうも部員の少ない学校には重要な戦力。今後も状況を思いながら安全対策をして活動の場を広げ、更なる開放を考えているようです。今現在部員の減少で連合チーム(2~3校でも1チーム)が増加し、今後少子化も進み、これまでの控え選手が担っていた役割を女子が果たしていくことになるかも知れません。

県立神戸高校野球部に女子部員が選手とマネージャーを兼任していることを知り、指導者は練習において体力差の違いなど、どう指導しているのか興味がわき、監督の話が聞きたく電話をし、学校にもいきましたが不在と云う事で会えなかったんですが、アポなしでグラウンドに行き練習を見学しました。

びっくりしたのは、グラウンドはそんなに広くないのに、野球部、サッカー部、女子サッカー部、ラグビー部、陸上部がグラウンド一面に使われており、野球部は内野の部分と、バックネットの間だけ使用する練習でした。野球の練習といえばスタート全員でランニングをし、全員でキャッチボールと思い込んでおりましたので、最初から少し面食らいましたが、限られたグラウンドの練習なので5グループ位に分けて、鳥カゴの中のバッティングバント練習、ベースランニング、素振り、ネットに向かってキャッチボール etc.工夫の凝らした練習でした。

監督に挨拶をと思い待っておりましたが、来ないようでしたのでグラウンドに行き、直接彼女に近づき少しだけお話をさせていただきました。大きな声で、ハキハキと日に焼けた笑顔で答えてくれました。本当に野球が楽しくて仕方がないような感じを受けました。

神戸高校の練習内容も含め、又、男子部員も皆明るく見ず知らずの私に挨拶をしてくれるような礼儀正しい仲間と一緒にいた環境が3年間続けられた要因の一つだと思いました。5回の試合で負けましたが、3年間選手とマネージャーの兼任をやり遂げた気持ちは満足感いっぱい、晴れやかな気持ちで高校野球生活を送ったと確信しています。

最後に、レベルが低くても明るく楽しく練習している姿は初々しく映り、又、これも青春かなと感じられ、たかが高校野球されど高校野球と、若返った気分が帰ってきました。